

終わりに、火山活動指数のパワー・スペクトルの計算には、気象庁長期予報課の能登正之氏の手をわずらわせたので、感謝の意を表したい。

文 献

- 荒川秀俊, 1955: 気候変動論. 地人書館, p.p. 37.
 Craig, R.A., 1952: Surface pressure variations following geomagnetically disturbed days and geomagnetically quiet days, J. Meteor., 9, 126-138.
 藤田敏夫, 1984: 環流パターンの変動に及ぼす火山爆発の影響. 気候変動集會報告集, IV-6.
 Humphreys, W.J., 1920: Physics of the air, Franklin Institute, press of J.B. Lippincott Company.
 磯野謙治, 駒林 誠, 1954: 火山塵による降水量の

- 増加, 天気, 1, 138-140.
 近藤純正, 1985: 最近 300 年間の火山爆発と異常気象・大凶作, 天気, 32, 157-165.
 Lamb, H.H., 1972: Climate: present, past and future, vol. 1. Methuen, 1977, vol. 2, Methuen, Barnes Noble.
 岡田武松, 1934: 東北地方凶冷の原因, 天気と気候, 1, 338-342.
 Smithsonian Institution, 1981: Volcanos of the World, Hutchinson press Company.
 Yamamoto, R., Iwashima, T. and M. Hoshiai, 1975: Change of the surface air temperature averaged over the Northern Hemisphere and large volcanic eruptions during the year 1951-1972, J. Meteor. Soc. Japan, 53, 482-486.
 山元龍三郎, 1978: 火山噴火と気候変化, 天気, 25: 81-102.

NEWS

熱帯域の「降水量観測衛星」計画始まる

NASA から、熱帯域の降水量を観測するための衛星を打ち上げる計画に対し、この秋、日本にも協力を呼びかけがあった。

この計画の名称は、TRMM (Tropical Rainfall Measuring Mission) と呼ばれ、赤道상을 30° で横切る軌道を持つ衛星を打ちあげ、熱帯域の雨量を観測しようとい

うものである(図参照)。日本側での対応する機関は、現在のところ、電波研究所で、衛星に搭載する測器の開発を主として分担する計画のようである。このデータの利用方法等、興味のある方は、詳細を、東京大学松野教授まで問い合わせていただきたい。

(東大理学部 住 明正)

